

2026京都自治研集会

平和運動は「戦争はダメ」から

京都府本部／八幡市職員労働組合

副執行委員長 高橋 祐太

- 私の紹介を少しだけ…

1987年8月29日生まれ 38歳 大山崎町出身 京都市伏見区淀 在住

2010年 大学卒業→乙訓や京都市南部をエリアとする農協で5年勤務

2015年 八幡市入庁 文化財保護課(現 文化財課)で6年

2021年 福祉総務課(民生児童委員担当)に異動で4年

2025年 人権政策課(平和推進事業担当)に異動

38歳にして広島には旅行で2度、長崎は修学旅行の1度
沖縄にも旅行で1度のみ…。



自治労まんが集団 ヨッシー イリエ 氏 作

Chapter I | 八幡市非核平和都市推進協議会

- ・ 八幡市非核平和都市宣言（1982年9月28日制定）

恒久の平和と安全は人類共通の念願であり、この至高の目標の達成なくしては、八幡市がめざしている「緑ゆたかな文化の都市」、「心のかよう福祉の都市」の実現もまたあり得ない。

われわれ八幡市民は、いのちの尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願い、核兵器の廃絶と軍備の縮小を強く全世界のひとびとに訴えるとともに、この人類普遍の大義に向かつて不断の努力を続けることを決意した。

ここに、八幡市を「非核平和都市」とすることを宣言する。



Chapter I | 八幡市非核平和都市推進協議会

・八幡市非核平和都市宣言

第 221 号
昭和57年
(1982年) 11月

八幡市非核平和都市宣言

恒久の平和と安全は人類共通の全願であり、この至高の目標の達成なくしては、八幡市のめざしている、緑豊かな文化の都市、心のかたち福祉の都市、の実現もまたあり得ない。

われわれ八幡市長は、いのちの尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願い、核兵器の廃絶と軍備の縮小を強く世界のひとびとに訴えるとともに、この人類普遍の大義に向かって不撓の努力を続けることを決意した。

ここに、八幡市を「非核平和都市」とすること宣言する。

昭和57年9月28日
八幡市

八幡市を非核平和都市に！

府下の自治体を初めて

市長提出の「非核平和都市宣言」が市議会において全会一致で可決されました。

この宣言は、誓りし原点である自治体が率先して、核兵器の廃絶と軍備の縮小を訴え、その輪を広く全国、ひいては全世界に広げてゆくために行ったもので、起草にあたっては自治との関連性と八幡市の独自性が表現されるよう配慮しています。なお、この宣言文（左上）を京都府知事、内閣総理大臣、衆・参両議院議長、国連事務総長に送付しました。

- ・ 1982年9月28日に非核平和都市宣言採択
- ・ 京都府下の自治体で初
- ・ 自治体が率先して核兵器の廃絶と軍備の縮小を訴え、その輪を広く全国、世界に広げるため。

Chapter I | 八幡市非核平和都市推進協議会

・府内自治体(全26市町村)の平和に関する宣言

全国初 世界連邦宣言自治体全国協議会の会長・事務局

自治体名	宣言名	宣言決議日	自治体名	宣言名	宣言決議日
綾部市	世界連邦都市宣言	1950.10.14	宇治田原町	非核・平和都市宣言	1989.6.28
八幡市	八幡市非核平和市宣言	1982.9.28	久御山町	平和都市宣言	1989.9.4
京都市	非核・平和都市宣言	1983.3.23	伊根町	非核平和都市宣言	1989.9.27
向日市	世界平和都市宣言	1984.6.26	舞鶴市	核兵器廃絶平和都市宣言	1990.3.24
城陽市	平和都市宣言	1986.12.23	大山崎町	非核平和宣言	1995.12.20
宮津市	非核・平和都市宣言	1987.3.27	長岡京市	いのち輝く長岡京市平和都市宣言	2000.12.
福知山市	恒久平和都市宣言	1987.9.25	京丹後市	平和都市宣言	2006.3.29
宇治市	核兵器廃絶平和都市宣言	1987.10.8	京丹波町	非核平和自治体宣言	2007.3.23
精華町	非核・平和都市宣言	1987.12.23	与謝野町	非核・平和の町宣言	2007.3.29
井手町	非核・平和都市宣言	1988.3.25	木津川市	非核・平和都市宣言	2007.10.3
和束町	非核和束町宣言	1988.6.26	南丹市	平和都市宣言	2007.12.21
南山城村	非核南山城村宣言	1988.9.21	亀岡市	世界連邦・非核平和都市宣言	2010.6.10
笠置町	非核・平和都市宣言	1988.12.16	京田辺市	非核平和都市宣言	2011.3.20

Chapter I | 八幡市非核平和都市推進協議会



第246号
昭和59年 9月
(1984年)

広報やわた

八幡市非核平和都市推進協議会（愛称：ピース八幡）

- 1984年8月6日発足
- 「八幡市非核平和都市宣言」の理念を市民レベルで具体化するために設立された組織
- 「平和で住みよいまちをつくるため、非核平和都市宣言の趣旨に基づく諸事業を推進することを目的に、八幡市内の各種団体、個人によって組織される」団体
- 2026年6月現在で
個人会員が約10名
団体会員が約20団体

八幡市非核都市推進協議会は、非核平和都市にふさわしい、平和で住みよいまちを作るため、加盟団体が協調して非核平和都市宣言の主旨にもとづく諸事業を推進することを目的に設立されました。会には、会長、副会長、事務局長のほか、同次長、幹事、監査を置き、会長が招集する総会や幹事会で取り組みについて決定し、事業を行います。

八幡市非核平和都市推進協議会の概略

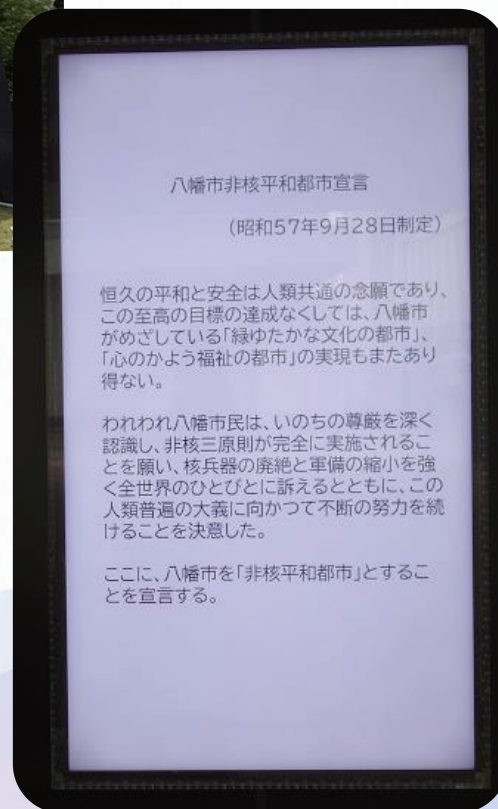


Chapter I | 八幡市非核平和都市推進協議会

公民館前に設置された
八幡市非核平和都市宣言版

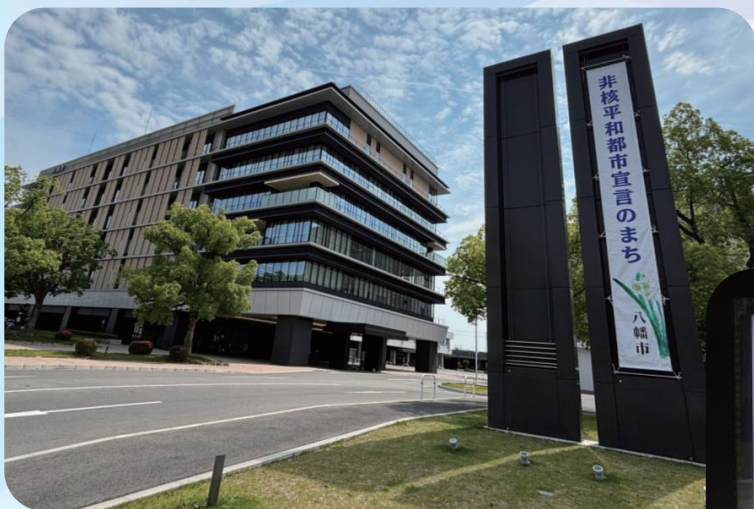


橋梁横断幕



八幡市非核平和都市宣言
デジタルサイネージ

市役所 懸垂幕



Chapter2 | 平和大使派遣事業

- 1983年から市の事業として取り組み、2002年からはピースハ幡の事業として実施。
- 2026年で44回目の実施。
- 毎年、市内の中学校4校から平和大使を2名ずつ計8名選出し、8月5日から6日の一泊二日で広島市の平和記念公園内の施設等で平和学習を実施。



← 事前学習のようす

引率者

ピースハ幡 小山会長

ピースハ幡 会員(2026は市職労書記)

市人権政策課 職員

Chapter2 | 平和大使派遣事業

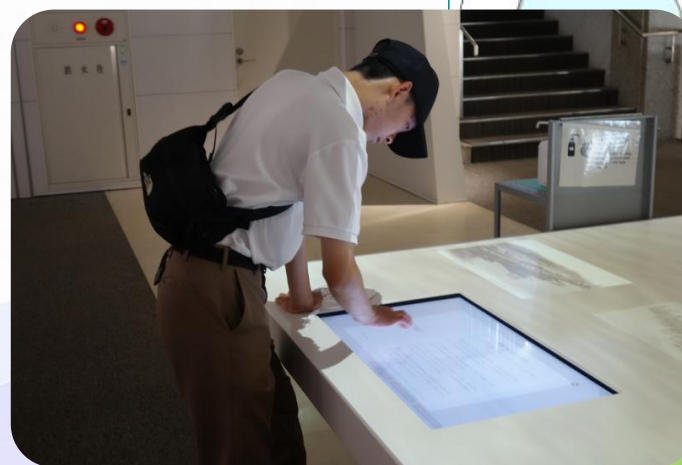
【1日目(8月5日)】

7時30分 市役所前で出発式

11時頃 広島 到着

昼食後 平和記念公園へ

平和記念資料館 見学



Chapter2 | 平和大使派遣事業

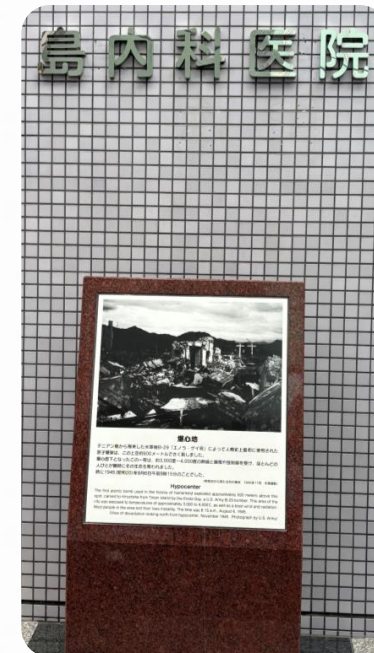
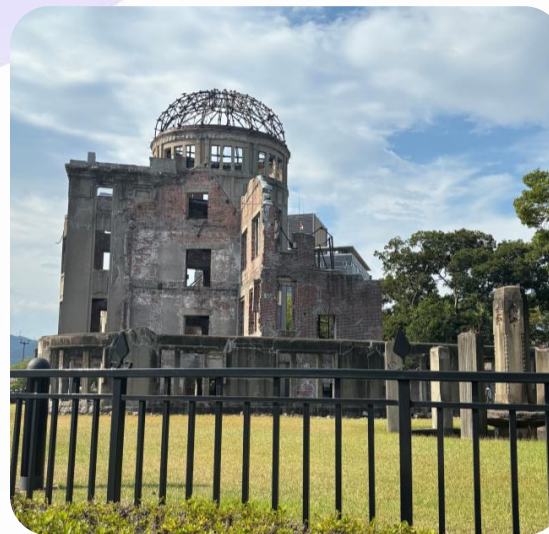
【1日目(8月5日)(つづき)】

15時頃 原爆ドーム
爆心地 などを見学

17時頃 広島被団協で語り部さんの
戦争体験談を聞く

19時頃 夕食

21時頃 ホテル帰着(1日目終了)



爆心地直下



語り部さん 講話

Chapter2 | 平和大使派遣事業

【2日目(8月6日)】

5時30分 ホテルで朝食

6時30分 ホテル出発

平和記念公園へ

8時 平和祈念式典 開式

平和祈念式典
会場



平和祈念式典
公演内には数か所モニターが設置

Chapter2 | 平和大使派遣事業

【2日目(8月6日)(つづき)】

9時30分 原爆の子の像に
千羽鶴を捧げる(別途紹介)
平和の鐘
戦争遺構 見学



Chapter2 | 平和大使派遣事業

【2日目(8月6日)(つづき)】

11時30分 昼食

14時頃 広島出発

17時頃 市役所前で帰着式



Chapter3 | その他の平和関連事業

・ 平和の折り鶴事業

毎年7月の1か月間、市役所のほか、
公民館や図書館などの公共施設など
約20か所にピースハ幡オリジナル折り紙と回収かごを
設置し、折り鶴を募集。

中学校では、校区の小学校
との連携事業に活用。



ピースハ幡オリジナル折り紙
2026は2色仕様



毎年折ってくださいる方も



本庁舎折り鶴ブース

公民館等のブース

Chapter3 | その他の平和関連事業

・ 平和の折り鶴事業 (つづき)

集まった折り鶴のうち

寄贈者がわかる千羽鶴: 平和大使が祈念式典後、原爆の子の像に。
その様子を撮影し、寄贈者に写真を贈呈。

寄贈者不明の千羽鶴: 長崎市に郵送
その他 (バラの) 折り鶴: 広島市に郵送

2025年は約8万羽の折り鶴が集まる。



原爆の子の像前



テレビの取材を受ける

Chapter3 | その他の平和関連事業

• 平和の折り鶴事業(つづき)

そもそも、なぜ折り鶴…?

佐々木禎子さん(1943年生まれ)

- 2歳のときに広島で被爆
- 10年後の12歳のときに白血病を発症。
入院中、「鶴を千羽折ると願いがかなう」
という言い伝えを信じて折り鶴を折り続けるも
1955年10月25日に永眠。
- 禎子さんの死後、同級生たちが原爆で亡くなった
子どもたちの慰霊碑を建てようと全国へ募金を
呼びかけた結果、1958年に広島平和記念公園に
原爆の子の像が建立。
像のモデルは禎子さん。



原爆の子の像と
折り鶴ブース



禎子さんが折った折り鶴は
平和記念資料館にて展示

Chapter3 | その他の平和関連事業

・ アンネのバラ事業

平和の大切さを次世代へ伝えることを目的として、毎年市内の公共施設などに「アンネのバラ」を植樹する取り組み。八幡市とピース八幡が連携して実施。



アンネのバラとは？

ホロコースト(ユダヤ人大虐殺)で犠牲になったユダヤ人の少女、**アンネ・フランク**にちなみ名付けられたバラ。アンネの父である オットー・フランクがベルギーの園芸家にアンネが好んでいたバラから新種のバラの作成を依頼し、誕生したのが Souvenir d'Anne Frank(品種名:アンネ・フランクの形見)。

オットーから贈られたバラが、日本で育成・普及され、現在では平和や命の尊さ、人権尊重戦争の悲惨さを忘れないことの象徴として全国各地で植えられている。

Chapter3 | その他の平和関連事業

・ アンネのバラ事業 (つづき)

四季咲きの「アンネのバラ」。小山会長所有の農園にある株から、毎年2株ずつ植樹。



八幡市非核平和都市宣言版
ミニサイズを設置するところも

Chapter3 | その他の平和関連事業

・戦争体験談記録集 作成事業

戦争を体験された方々の高齢化が進み、戦争の悲惨さを風化させないためにも、後世に語り伝えることが必要であることから、2015年が戦後70周年の節目となることに当たり、戦争体験談収録を実施し、検証及び文集の作成を行う。

翌2016年9月に戦争体験談記録集を刊行。

市ホームページにPDFデータで掲載。

アドレス：<https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000004308.html>



Chapter3 | その他の平和関連事業

・戦争体験談記録集 作成事業(つづき)

広報やわた2015年7月号や市ホームページで戦争体験談の募集記事を掲載し、3か月募集。職員2名体制で自宅等に出向きインタビュー。

冊子構成(全70ページ)

- ・市民13名、市立高齢者施設来館者の証言
- ・大学教授等の2名の監修者からの寄稿
- ・ポツダム宣言(現代日本語訳)
- ・戦争関連年表、八幡市の応召者数等の資料

戦争体験をお聞かせ下さい

市職員がインタビューに伺います

終戦から70年が経過し、戦争体験者の高齢化が進み、戦争を知らない世代が、身近な人から当時のことを聞く機会は年々少なくなってきています。

若い世代に戦争体験を伝えていくことを目的に、戦時中の暮らしや当時の八幡市の様子などを、語っていただける人を募集します。※作文でお寄せいただいても結構です。

体験談は文集にし、平和教育・啓発等に活用する予定です。

対象 市民または過去に八

幡市に居住していた人で戦争体験のある人

募集期間 7月1日(水)～9月30日(水)

申込み方法 申込用紙(市役所、八幡・人権交流センター等市内公共施設に備え付け、市ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入のうえ、(〒614・8073 八幡軸63

八幡人権・交流センター)人権啓発課へ郵送、FAXまたは直接提出。

◆問い合わせ 人権啓発課

(☎981・3127、FAX983・4545)

まとめ | 「戦争はダメ」その気持ちが大事

38歳で初めて広島平和記念公園、平和記念資料館などを訪れ、
被爆体験者のお話をお聞きし、戦争の恐ろしさをあらためて痛感。

難しく考えなくていい…

唯一の被爆国である日本人として、
縁あって府内初の非核平和都市宣言をした八幡市の職員として
核なき世界、戦争なき世界を願わずにはいけない!!

皆さんも、生涯に一度でいいから

広島平和記念公園や平和記念資料館に行ってほしい。